

- 港湾活用方針をふまえた拠点港整備に向けた施策の進め方を「ロードマップ」としてとりまとめるとともに、活用や港湾整備などのゾーン設定イメージを将来像として作成しました。

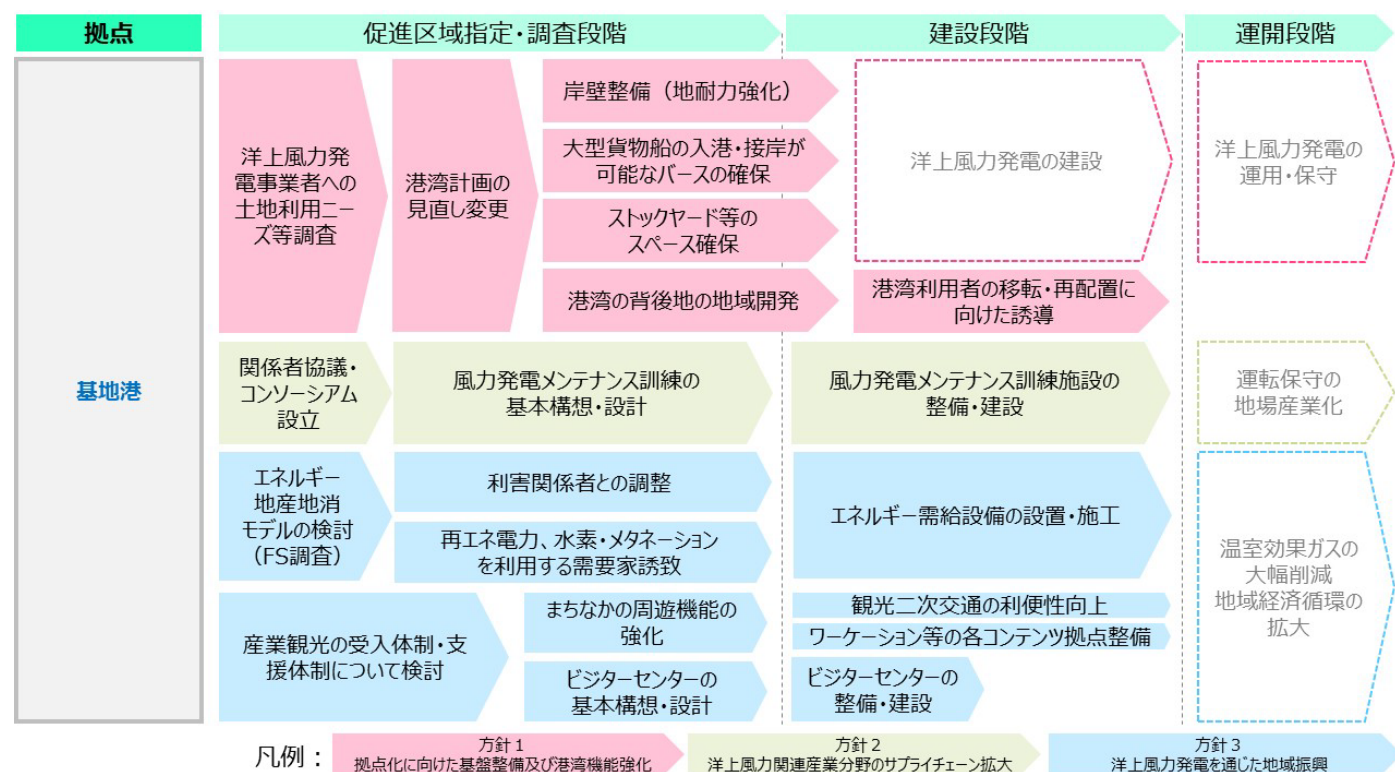


図 2 拠点港整備に向けたロードマップ（基地港）



図 3 拠点港整備のゾーン設定イメージ（着床式-基地港を想定）

用語解説

RE100：事業活動で消費するエネルギーを 100%再生可能エネルギー（Renewable Energy）で調達することを目標とする目標や取組のこと。

メタネーション：CO₂と水素から「メタン」を合成する技術。ガスを脱炭素化する方法の一つとして有望視されている。

コンソーシアム：事業の意思決定および実施等を2つ以上の団体で行う共同事業体のこと。

■本調査は、「令和6年度エネルギー構造高度化・転換理解促進事業費補助金」（経済産業省）を活用して実施したものです。

—洋上風力発電事業の産業拠点化に向けた調査・研究事業委託業務—

報告書【概要版】



本市は、工業団地等への再生可能エネルギー導入促進や自治体新電力の設立など、エネルギーと産業振興を組み合わせた「環境維新のまちづくり」を推進しています。

再エネ海域利用法による洋上風力発電促進区域の指定後を見据え、関係者等へのヒアリング、アンケート調査、勉強会や検討会の開催を通じて具体的な地域振興策および漁業振興策の立案、港湾の産業拠点化の検討などを行いましたので、その調査結果を報告します。

1. 漁業との共存共栄を目指した漁業振興策の調査研究

- 市内の漁協組合長を対象とした漁業振興策検討会及び組合員を対象とした漁業振興策作業部会を開催し、過年度の検討結果を踏まえた漁業振興策の具体化を図りました。

表 1 漁業振興策及び概要

漁業振興策	概要
基金の創設	発電事業で得られた利益を地域へ還元する目的として基金を設置する。
調査業務等での漁船の活用	漁業者が所有する漁船を、洋上風力発電の調査や観光資源として活用する。
藻場の保全	市、漁協（漁業者）、大学等が連携してブルーカーボン創出プロジェクト協議会（仮称）を立ち上げ、磯焼け対策や藻場造成を行う。プロジェクトを通してブルーカーボンクレジットを創出し、クレジットで得た利益をプロジェクトに還元する。
人工漁礁の設置	基金を活用して、魚介類の保護、育成、蛸集、増加等を目的として人工漁礁設置を図る。
養殖漁業（海面養殖）	現在進められている「ヒオウギ貝」の養殖試験について、販売ルートの開拓やブランド化検討などにより事業化を検討、支援する。
養殖漁業（陸上養殖）	漁港の空き用地などで陸上養殖の可能性を検討する。陸上養殖の他自治事例の収集し、基金を活用した試験養殖事業を行う。
放流栽培漁業	漁獲量増加のため、基金を活用した「種苗放流事業」を継続・拡大を図る。
水産物の高付加価値化	新たな加工場等を整備して、漁獲から加工・販売までの6次産業化を検討する。水産加工業者で再エネ電力を活用することにより、RE100 商品化を検討する。
水産関係施設の集約化、漁港施設・設備の更新	現在の漁業実態や利用状況にあわせて、近隣の漁港間での施設利用の見直しを行い、必要に応じて規模の適正化や再編・集約などを検討する。 漁業従事者の減少等に伴い稼働率の低い漁港施設について、建て替えや更新、整備を行う。 余裕の生じた施設・用地・水域は、新たな生産の場や交流の場などに利活用する。

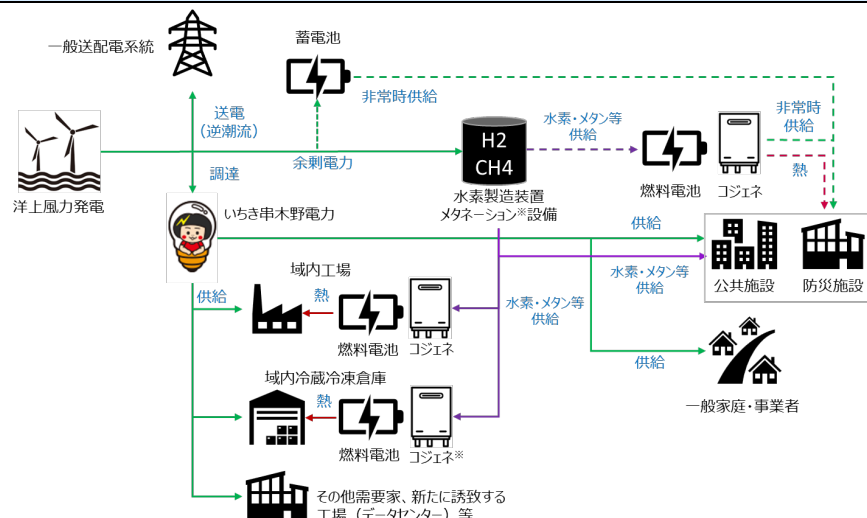
2. 地域振興策の検討

- ・ 市内事業者に対して洋上風力発電事業の知見を得てもらうとともに、洋上風力発電事業に関するサプライチェーンの構築に向けた現状把握・課題抽出を行うことを目的とした勉強会を開催しました。
- ・ 勉強会に参加した事業者に対し、アンケート調査を実施し、勉強会の理解度や洋上風力発電事業のサプライチェーンにおいて関心がある工程、参入に向けた課題を把握しました。
- ・ 本勉強会の内容に対して一定の理解を得られ、洋上風力発電事業に対する理解度の向上が図られました。
- ・ 洋上風力発電事業のサプライチェーンへの参入に向けた課題として主に「専門技術や資格の取得」（29%）、「新規参入・開発を担う人材不足」（18%）となり、“人材確保・育成支援”へのニーズに応えていくことが重要となることがわかりました。
- ・ 令和５年度にとりまとめた地域振興策に係る下記３つの推進プロジェクトについて、推進プロジェクトを担うことが期待される市内の主要なプレイヤー候補を対象に、推進プロジェクトへの関心や参画可能性のある洋上風力発電事業の事業内容やフロー、数量等についてヒアリングを実施することで、メニューや担い手の具体化を図りました。

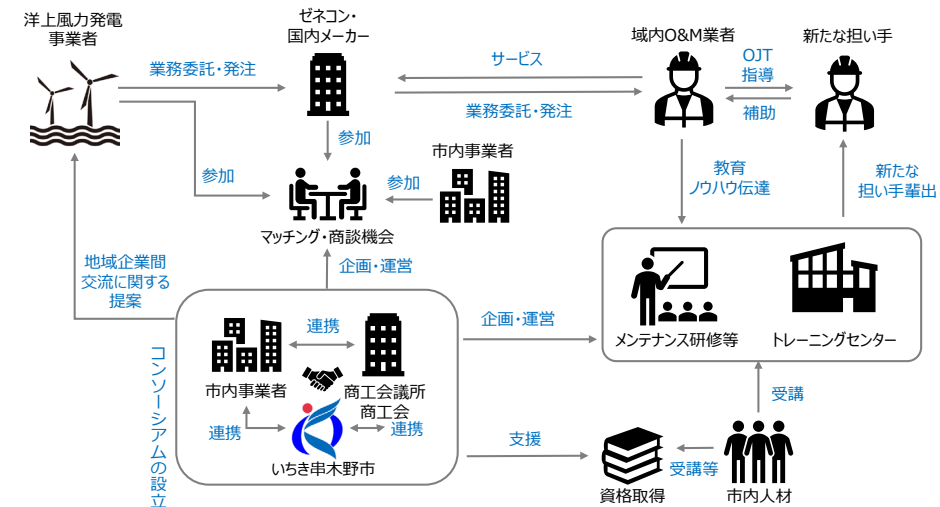
表 2 推進プロジェクトのメニュー概要

推進プロジェクト	メニュー	メニュー概要
洋上風力を活用した電力地産地消事業	地域への電力供給	- 洋上風力で発電される電気の市内及び周辺企業や地域住民への供給 - 災害時における地元への電力供給
	再エネ電力需要の創出	- 再エネ電気の活用を希望する企業の誘致 - 地域新電力と協働した市内企業の再生可能エネルギーの地産地消（RE100等）を後押し
	洋上風力発電の電力を活用した水素製造・メタネーション	- 付近の冷蔵冷凍倉庫、工場へのメタネーションや水素利用の促進 - 公共施設（ごみ処理施設、給食センター等）へのメタネーションや水素利用の促進
洋上風力に係る地域産業振興事業	洋上風力関連産業に携わる人材育成・確保	- 風力発電メンテナンス技術者養成に向けた研修会・出前講座の開催 - 風力発電メンテナンス訓練施設の整備 - 風力発電メンテナンス等関連資格取得への支援
	企業間連携の充実	- 地域産業振興に向けた、コンソーシアムの設置による地域企業間の交流 - 洋上風力関連事業者との商談機会を創出 - 大手建設企業等の開発ニーズと地域企業の技術とのマッチング機会の創出
洋上風力に係る地域PR事業	地域内の観光施設との連携	- 洋上風力発電設備及び関連産業の観光ツアーを開発 - 周辺地域連携機能（他市施設との連携による相乗効果発揮等）を強化
	滞在施設機能の強化	- 中長期滞在が可能な設備の充実 - 発信や交流の拠点となるビジターセンターを整備 - 観光客の受入れ環境（駐車場、トイレ等）の充実
	地域資源のブランディング・情報発信	- 市内水産物加工業者等と協力した市特産品の付加価値向上 - 域内のコンテンツの魅力等に関する効果的な情報発信

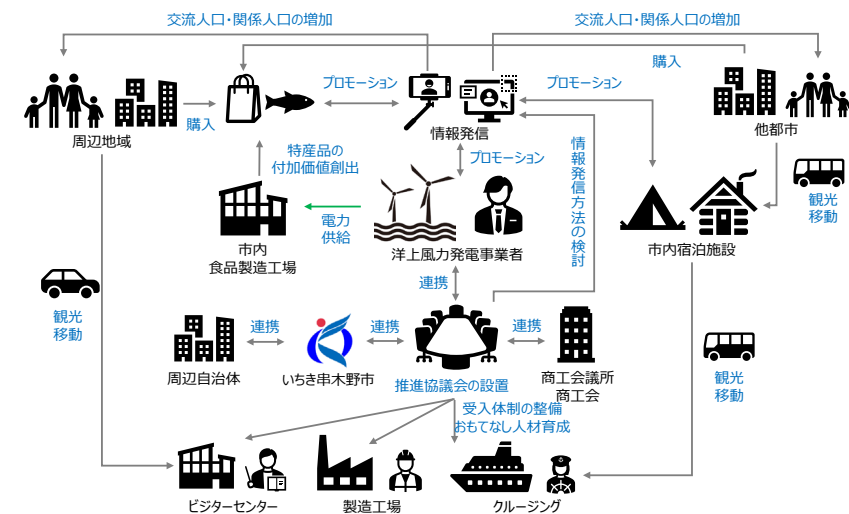
洋上風力を活用した電力地産地消事業（スキーム案）



洋上風力に係る地域産業振興事業（スキーム案）



洋上風力に係る地域 PR 事業（スキーム案）



3. 洋上風力産業拠点化の検討

- 洋上風力発電事業と地域振興策との融合を図った関連産業集積による港湾活用方針を体系的に整理しました。
- 先行自治体に対するヒアリングを実施し、拠点港指定に意向を示した背景・経緯、地元自治体や風力発電事業者などの関係者との調整事項、意向調査や整備にあたり整理すべき事項などを把握しました。

拠点港（串木野新港）

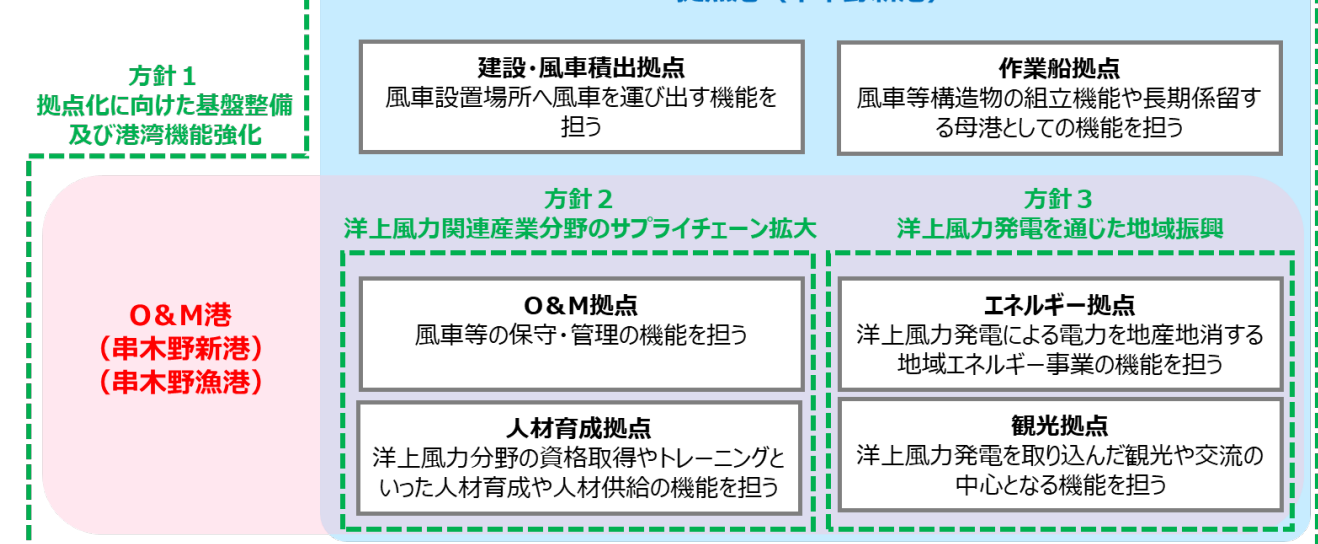


図 1 港湾活用方針（方針 1～方針 3）